

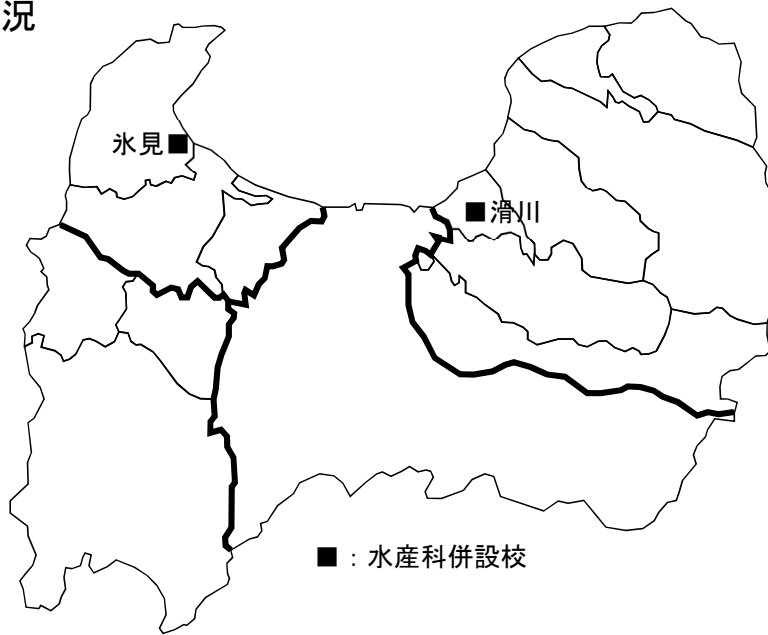
第5回

資料3

1	水産科について	・・・1
2	看護科について	・・・2
3	福祉科について	・・・3
4	総合学科について	・・・4
5	定時制・通信制について	・・・5

1 水産科について

1. 配置状況



砺波学区	高岡学区	富山学区	新川学区
—	氷見■	—	滑川■
—	海洋科学科(20)	—	海洋科(40)

(令和6年度募集定員)

2. 志願状況と欠員状況(過去10年間)

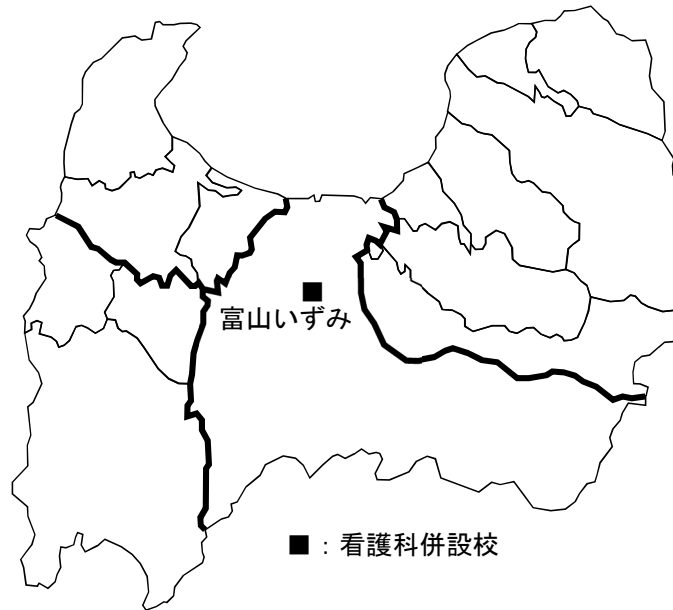
H26年度		H27年度		H28年度		H29年度		H30年度		R1年度		R2年度		R3年度		R4年度		R5年度		<参考>
倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	R5募集定員
2.33		1.86		1.58		1.39	1	1.19		1.46		1.56		0.93	3	1.15	2	0.81	12	60

3. 特色ある取組み

- ① **Society5.0 社会に対応した人材育成 ～問題解決能力、問題発見能力の育成～**
 - ・スマート水産機器(潮流計、観測機器)を活用した定置網漁場周辺のデータ集積
 - ・「ます寿司」の原料サクラマス飼育、放流
 - ・水産食品(真空パック、缶詰)の開発
- ② **地域や産業界との連携**
 - ・地元魚問屋との連携による未利用魚を利用した製品開発
 - ・市や企業との連携による駆除ウニの商品化
- ③ **魅力発信**
 - ・富山湾の豊かな漁場と美しい海を守るための海洋環境の研究活動や保全活動
 - ・滑川ホタルイカ祭り、ふるさと龍宮祭り販売実習

2 看護科について

1. 配置状況



砺波学区	高岡学区	富山学区	新川学区
—	—	富山いずみ■	—
—	—	看護科(40)	—

(令和6年度募集定員)

(参考) 県内の看護師等養成機関

砺波学区	高岡学区	富山学区	新川学区
砺波准看護学院	富山福祉短期大学 富山県高岡看護専門学校	富山大学 富山県立大学(富山キャンパス) 富山市立看護専門学校 富山市医師会看護専門学校	富山医療福祉専門学校

(R6年度 生徒募集を行っている養成機関)

2. 志願状況と欠員状況(過去10年間)

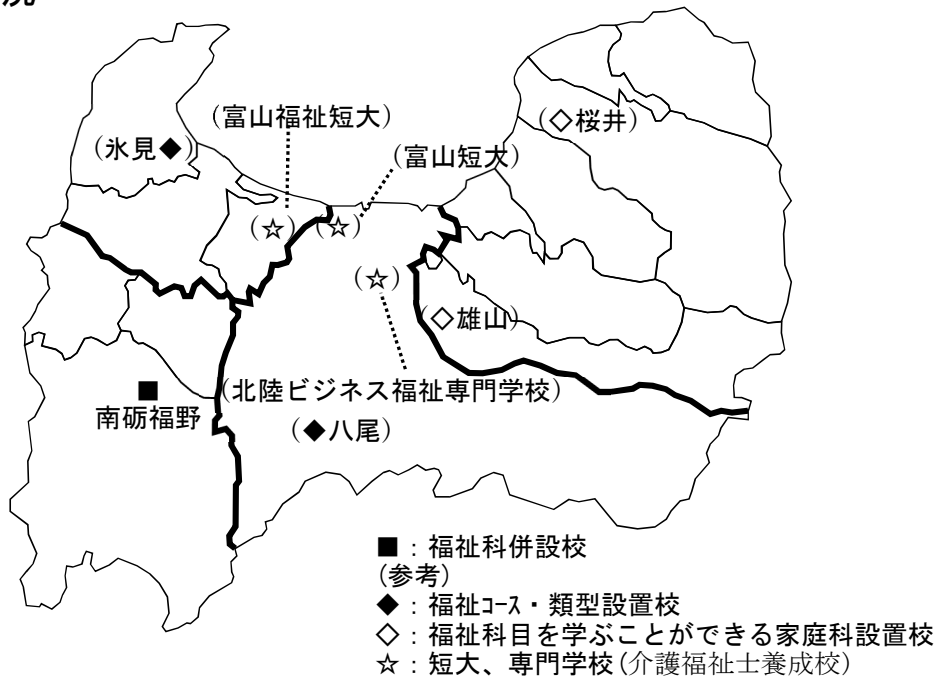
H26年度		H27年度		H28年度		H29年度		H30年度		R1年度		R2年度		R3年度		R4年度		R5年度		<参考>
倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	R5募集定員
0.85		1.75		1.19		1.13		1.38		2.00		0.84	3	1.38		1.17		1.27		40

3. 特色ある取組み

- ① Society5.0 社会に対応した人材育成 ～問題解決能力、問題発見能力の育成～
 - ・5年間の系統的に段階を踏まえた教育課程
 - ・最新のシミュレータを導入した実習
- ② 地域や産業界との連携
 - ・地元の特別養護老人ホーム・保育所など45施設で臨地実習
- ③ 魅力発信
 - ・地元自治会へ年3回「健康だより」を発行
 - ・富山マラソン救護ボランティア、県立中央病院での災害訓練への参加など

3 福祉科について

1. 配置状況



砺波学区	高岡学区	富山学区	新川学区	
南砺福野■	(氷見◆)	(八尾◆)	(雄山◇)	(桜井◇)
福祉科 (30)	〔生活福祉科 (福祉類型)〕	〔普通科 (福祉コース)〕	〔生活文化科 生活環境科 (福祉科目を開設)〕	

(令和6年度募集定員)

2. 志願状況と欠員状況 (過去10年間)

H26年度		H27年度		H28年度		H29年度		H30年度		R1年度		R2年度		R3年度		R4年度		R5年度		<参考>
倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	R5募集定員
1.00		1.50		0.75		1.13		1.40		0.80		0.53		1.20		1.27		1.40		30

3. 特色ある取組み

① 問題解決能力、問題発見能力の育成

- ・ 介護福祉士国家資格取得に向けた学習
(要介護者の生活課題に対する介護計画の立案及び介護・支援の実施)

② 地域や産業界との連携

- ・ のべ120ヶ所以上の様々な社会福祉施設での実習
- ・ 地域包括支援センターや福祉センター等の活動への積極的参加
(フレイル (※加齢により心身の活力が低下した状態) 予防教室のサポート、地域交流でのワークショップの運営等)

4 総合学科について

1. 学科について

普通教育を 主とする学科	専門教育を主とする学科		普通教育及び専門教育 を選択履修を旨として 総合的に施す学科
	その他	職業系	
<u>普通科</u> 新たな普通科 (学際領域学科 地域社会学科)	<u>理数関係</u> <u>外国語関係</u> <u>国際関係</u> ・音楽関係 美術関係・体育関係	<u>農業・水産・工業</u> <u>商業・家庭・看護</u> <u>福祉</u> ・情報	<u>総合学科</u>

※下線は、本県に設置されている学科

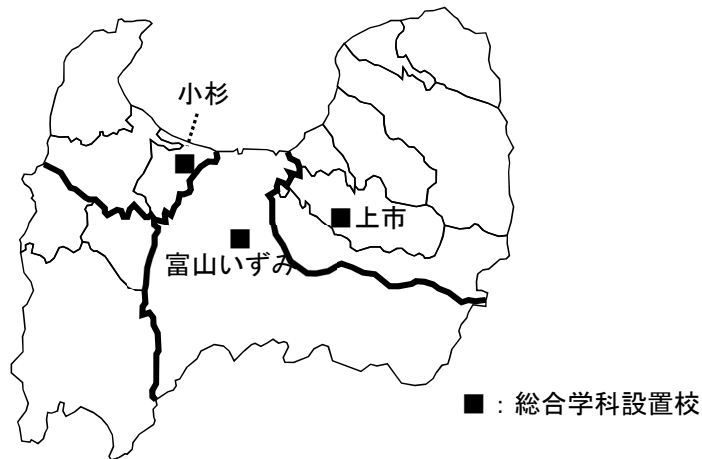
※探究科学科は理数科学(理数関係)と人文社会科学(外国語関係)の2学科の総称

【総合学科】

総合学科は、普通科、専門学科のいずれにも属さない「第3の学科」と呼ばれている。この学科の特徴は、普通教科及び専門教科の両方の多様な科目を開設するとともに、科目選択や進路選択に関するガイダンス機能の充実を図り、生徒が興味・関心、能力・適性、進路希望等に基づき履修科目を選択できるようにしている点にある。

総合学科を設置している各校では、学校の実情に合わせて、テーマ性をもった選択科目群「系列」の開設やグループで取り組む課題研究の実施など多様な教育課程を編成し、一人ひとりの生徒に応じた学習活動が行われるよう取り組んできたところである。

2. 配置状況



砺波学区			高岡学区			富山学区			新川学区		
学校	学級数	定員	学校	学級数	定員	学校	学級数	定員	学校	学級数	定員
			小杉	4	150	富山いずみ	4	150	上市	4	150

(令和6年度募集定員)

3. 志願状況と欠員状況(過去10年間)

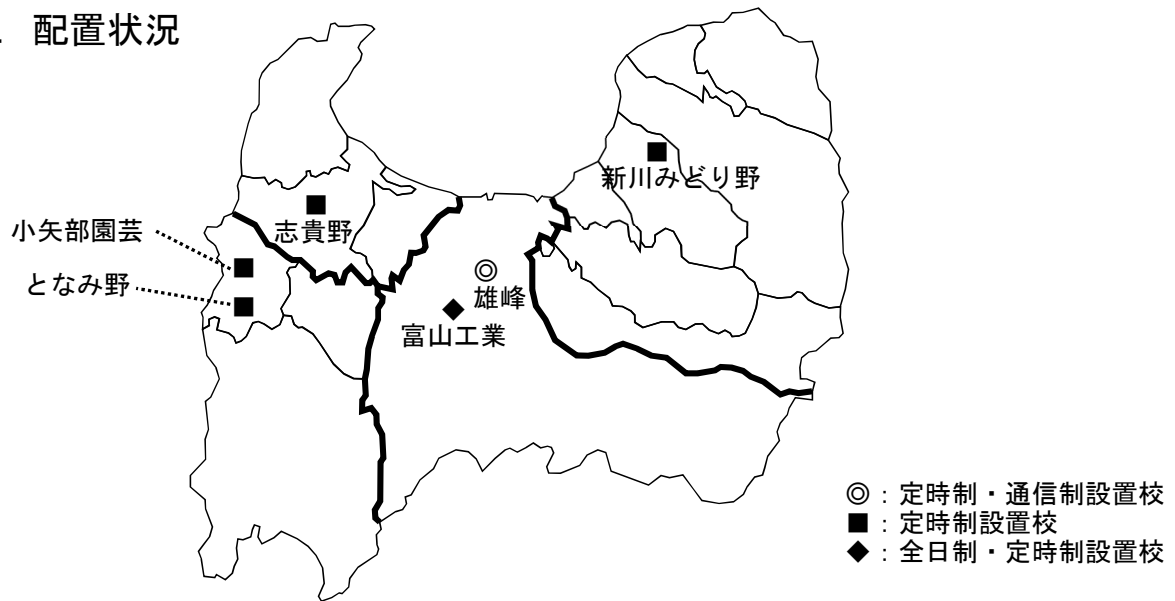
H26年度		H27年度		H28年度		H29年度		H30年度		R1年度		R2年度		R3年度		R4年度		R5年度		<参考>
倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	倍率	欠員	R5募集定員
1.19		1.51		1.09		1.42		1.42		1.14		1.07	4	1.47		1.28	14	1.10	10	460

4. 現状と課題

多様な科目を開設するために必要な定員設定等について検討する必要がある。

5 定時制・通信制について

1. 配置状況



○定時制

学 校 名	区 分	学 科 名	R6募集定員
新 川 みどり野	昼間単位制Ⅰ部	普 通	約 40
		福祉教養	約 40
	昼間単位制Ⅱ部	普 通	約 40
		夜間単位制	普 通
富山工業	夜間制	機 械	約 40
		電 気	約 40
		生産機械	約 40
雄 峰	昼間単位制Ⅰ部	普 通	約 80
		生活文化	約 40
	昼間単位制Ⅱ部	普 通	約 40
		夜間単位制	普 通
		総合ビジネス	約 40
志 貴 野	昼間単位制Ⅰ部	普 通	約 40
		総合ビジネス	約 40
	昼間単位制Ⅱ部	総合ビジネス	約 40
		生活文化	約 40
	夜間単位制	普 通	約 40
国際教養		約 40	
小矢部園芸	昼間単位制	園 芸	約 40
となみ野	昼間単位制Ⅰ部	普 通	約 40
		総合福祉	約 40
	昼間単位制Ⅱ部	普 通	約 40
合 計			約 960

○通信制

学 校 名	学 科 名	R6募集定員
雄 峰	普通、衛生看護	約 300

2. 現状と課題

①定時制

- ・定時制高校の在籍生徒の割合は、平成5年度の2.4%から増加し、平成15年度以降は4.7%程度の横ばいとなっている。
- ・小・中学校において不登校経験をもつ生徒、高校を中途退学した生徒、大きな集団での教育になじめない生徒等、多様な経歴、価値観をもつ生徒が在籍しており、働きながら学ぶかつての定時制のイメージとは様変わりをして久しい。
- ・学力や学習意欲、進路希望、生活習慣、家庭環境などの面で多様な生徒が在籍しているため、個々に対応したきめ細かな指導や支援が求められる。
- ・前述のような中学時代の不登校経験がある生徒でも、生徒会で活躍したり、部活動で全国大会に出場したりするなど、成長する生徒もおり定時制の役割は大きい。
- ・単位制、多部制の利点を生かし、自分で時間割を組んで、自分の生活スタイルに合った高校生活を作ることができる学校がほとんどである。
- ・定時制に入学後、学業と並行してアルバイトなどで仕事をするすることで、社会性を身に付け、コミュニケーション能力を伸ばす生徒もいる。
- ・基本的な生活習慣が身に付いていないなど、学校生活への適応力を十分備えているとは言い難い生徒も見受けられる。
- ・再スタートを目指して入学するが、不登校傾向が改善されない生徒も見受けられる。

②通信制

- ・普通科では、学力・能力、学習目的・環境がより多様化してきている。
- ・様々な年代の生徒が在籍しているが、長い期間、在籍だけの不活動生だった者が、急に意欲を持って活動生として登録するケースもある。
- ・新入生の中には、朝起きられない生徒や対人関係が苦手な人と会いたくないという生徒もいる。
- ・若年生徒は小・中学校段階での不登校経験者が多く、基礎学力が身に付いていない生徒も見受けられる。
- ・中高年生徒は基礎的・基本的学力に格差がある。また、勤務や家庭状況等で多忙なため、学習時間の確保が困難である。
- ・転・編入学生徒には基本的な生活習慣が身に付いていない生徒が見受けられる。また、進路希望も多様である。
- ・新入・転編入を問わず、心身ともに耐性の弱い生徒が増加している。

3. 多様な生徒への対応

① スクールカウンセラーの配置、教育相談体制の充実（H13年度～）

不登校、いじめ、友人関係、親子関係、学習関係等多岐にわたる。発達障害、精神疾患、リストカット等の自傷やその他の問題行動など多様な相談に「心の専門家」として対応

② 就職支援教員（ジョブ・サポート・ティーチャー）の配置（H14年度～）

生徒の現状をよく理解し、校内での指導、就職先の開拓や卒業生の勤務する会社訪問など、生徒の就職実現に向けた対応

③ 特別支援教育専門支援員（現：巡回指導員）の配置（H23年度～）

要請に応じて高校を巡回し、ケース会議への参加や授業支援、専門的な立場からの指導助言を行う

④ スクールソーシャルワーカーの配置（H27年度～）

問題を抱えた生徒に対し、生徒が置かれた環境へ働き掛けたり、関係機関等とのネットワークを活用したりするなど、多様な支援方法を用いて対応し、課題解決を図る

⑤ 通級指導体制の充実（H30年度～）

障がいのある生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取り組みを一人ひとりの状況に応じて支援。例えば、必要なソーシャルスキル等を身に付けさせる指導